

編 集 後 記

今号の生涯教育講座は「神経筋接合部異常とインスリン様成長因子による治療法開発の可能性」である。解剖学講座の藤谷教授がなぜこれに着目したか、医学部の事情がそこに垣間みられる。研究をどのように指導し取り組むべきか、また研究成果をどのように臨床に還元・展開するか、これらに対する考察は大学人の使命である。総説は筋腫分娩の治療法であるが、馴染みの薄い領域であるからこそ、一般医にはこの概説が非常に参考となる（小林論文）。ヘルスサイエンスセンター島根からは検診受診者の血圧管理と脳卒中発症に関する疫学的研究が（牧野論文）、また松江市や大田市からは地域の小中学校で必要とされる学校医の課題（貴谷論文）や小児科医の実態調査が報告されている（堀論文）。地域における医療体制の整備にはやはり小児医療の充実を念頭におくべきである。さらに、勤務医あるいは開業医の実態調査を基に専門領域を踏まえた医師の育成を行い、島根創生に資する医療提供体制を整備することが重要である。一方で、高齢化社会におけるサルコペニアは重要で、嚥下障害は低栄養に関連するため、その要因分析と対策に関する研究が報告されている（油谷論文）。症例報告では稀有な症例（長見論文）や実臨床に役立つ報告など充実した内容となっている。日々の臨床で遭遇する疑問に対し、論理的な判断ができるような医学雑誌としての島根医学の立ち位置を改めて認識した次第である。

(H.S)

島根医学編集委員

浅野博雄， 貴谷 光， 児玉和夫， 大居慎治， 齋藤寛治，
 細田眞司， 小阪真二， 田邊一明， 小林祥泰， 椎名浩昭，
 古和久典

島根医学

令和6年6月1日発行

発行者 島根県医師会
 松江市末次町
 編集 編集者 浅野博雄
 発行所 松江市学園南2丁目3番11号
 有限会社 松陽印刷所